



年
組
名前



東大4年・阿部飛雄馬選手(滝沢)

滝沢市出身で東京大4年の阿部飛雄馬選手(23)は盛岡一高出身で、第96回箱根駅伝来年1月2、3日にオープン参加する関東学生連合チームの主将に選ばれた。学生ランナーが憧れる新春の大舞台に「歴史をつくりたい」と同大からの出場を目指し、最終学年でつかんだチャンス。14日からは千葉県で連合チームの合宿が行われる。「強豪私学に入学しなくても、箱根駅伝を走れる新たなイメージをつくりたい」とエントリーへ闘志を燃やす。

東京都のハーフマラソンコースで行われた10月の箱根駅伝予選会。阿部選手は1時間5分11秒、個人64位に入り、予選会で敗退した大学の選手で編成される連合チームの一員に選ばれた。「暑くて周りがタイムを落とす中、昨年よりも1分以上縮められた。1年間の成果を出せた」と笑顔を見せた。練習は順調。大規模なレースにも参加し、経験を積み、11

関東学生連合主将に エントリーへ闘志



1万円記録挑戦競技会で力走する阿部飛雄馬選手(中央)。憧れの箱根駅伝での好走を誓う(滝沢市)

月下旬には、横浜市で行われた1万円記録挑戦競技会に出場。降雨で自己ベストには届かず「1万円の大規模なレースの経験が無く、前半に速いペースの展開に対応できなかった」と悔しさをにじませたが、現状を見極めて練習を選別し、継続できていることに自信を深める。

箱根駅伝は小学生時代から憧れた舞台だ。東京大への志望理由も「強豪私学も考えたが、東大から出られたらすごいと思った」と箱根出場を第一に考えての選択だった。だが入学後の道のりは厳しかった。大学3年春までは、太ももの疲労骨折などのけがと焦りで高校時代の自己ベストすら更新できなかった。「強い野望がプレッシャーになってしまった。陸上以外の興味を増やし、楽しめれば良いと考えられるようになった」との気持ちの変化が成長につながった。

盛岡一高で指導した藤井雅史教諭(左)は「まずはメンバとして人と人をつなぎ、チームを良い方向に導きたい」と熱い思いで走り込む。

阿部選手は14、15の両日、麗沢大(千葉県柏市)の合宿に参加し、本番のエントリーを目指す。希望区間は東京大生が初めて走った8区。「先輩の記録を塗り替える。主将として人と人をつなぎ、チームを良い方向に導きたい」と熱い思いで走り込む。

1. すごいなあと思うところに線を引きながら記事を読みましよう。
2. どのような内容の記事か、60字以内でまとめてみましょう。

.....

.....

.....

.....

.....

3. 記事をまとめた記者は、阿部選手にどのような質問をしたと考えますか。3つ答えましょう。

- ①
- ②
- ③

4. 阿部選手に応援メッセージを送るとすれば、どのような応援メッセージを送りますか。考えてみましょう。

.....

5. この記事にタイトルAを付けるとすれば、どのようなタイトルにしますか。15字以内で答えましょう。

.....

6. この記事を読んだ感想や意見を書いてみましょう。

.....

(2019年12月14日付・岩手日報25面)